

2026 年度第 1 回ふれあい講座実施報告

実施日時：2026 年 6 月 12 日(金)19:00～20:30 実施場所：JICA 沖縄体育館
来場者数：59 名（一般 59 名）、（ゲストスピーカー研修員 14 名）(UIRA/ICOs4 名)

JICA 研修員(出身国)

基礎教育の格差改善に向けた教育行政強化

(ブルキナファソ)Ms. ガジダトゥ、(インドネシア)Ms. カリシャ、(ジャマイカ)Ms. アン、(リベリア)Mr. トマス、(モンゴル)Mr. サロル、(パプアニューギニア)Ms. リネット、(東ティモール)Ms. アレクサ、(スリランカ)Ms. カラニ、Mr. カーブ

ミバエ類殺虫技術

(エジプト)Ms. マイ、(モザンビーク)Ms. ランガ、(タンザニア)Ms. クリスティーナ、(タイ)Ms. ハナ、(トンガ)Mr. セミ

当日の様子

第 1 回ふれあい講座は、基礎教育の格差改善に向けた教育行政強化コースから 9 名、ミバエ類殺虫技術コースから 5 名、13 か国 14 名の JICA 研修員をゲストスピーカーに迎え開催しました。民族衣装や各国の伝統的な衣装に身を包んだ研修員が並ぶ姿は圧巻でした。オープニングでは、研修員が名前・出身国・母語でのあいさつを交えながら自己紹介を行い、その後、「どちらが〇〇国のもの？」をテーマにした 2 択クイズを実施しました。

クイズでは、「エジプトのさとうきびはどれ？」「ブルキナファソの国民食はどちら？」「モンゴルの伝統的な蒸し餃子はどちら？」など、各国の文化や食に関する問題を出題。沖縄や日本のものと見分けがつかない果物もあり、楽しみながら世界の文化を学ぶ時間となりました。

交流タイムでは、浦添小学校の子どもたちがジャマイカのカリシャさんを囲み、写真や動画を見せてもらいながら文化や暮らしの違いについて質問していました。また、大きな世界地図の前では、モザンビークのランガさんが自国の位置や日本までの渡航ルートを説明する場面も見られました。パプアニューギニアのリネットさんは、コーヒー豆や伝統柄のバッグ、貝殻で作られたアクセサリーを展示し、自国のマーケットの写真を交えながら紹介してくれました。小学生の兄弟を連れたリピーターの親子は、『世界の国々』の本を片手に研修員の出身国のページを開き、自ら会話のきっかけをつくる姿が印象的でした。

パフォーマンスタイムでは、モンゴルのサロルさんがラップ調のポップな曲を披露し、リベリアのトマスさんはダンスを披露。最後は来場者全員で「カチャーシー」を踊り、シニア世代が踊り方を教えたり、高校生が「イーヤーサーサー！」と合いの手を入れたり、世代や国籍を超えて会場が一体となり、終始笑顔あふれる交流となりました。

次回のふれあい講座は、8 月 21 日（金）に開催予定です。皆さまのご参加をお待ちしております。

会場の様子

オープニング



子供たちも積極的に質問します



モンゴルの歌を披露する研修員



リベリアのダンスを披露



カチャーシーで笑顔満開



第 1 回 集合写真

